太陽光発電と緑化

最近緑地面積の確保を目的に、設計段階で図面に入っていた屋上緑化が消えてしまっていることが目に見えて増えてきました。工場立地法や各自治体の規定が変わり42円/kwで20年間買い上げが保証されているのです。お金になり、工場立地法にも合致するので採用したくなるのは良くわかります。しかし、太陽光発電にも結構問題があるようです。まず温度の問題ですが基本的に屋上は直射日光に晒されて非常な高温になることが多い（夏の金属屋根65～80℃、コンクリート抑えでも60℃以上）のですが、基本的に太陽光発電の発電能力は熱に弱い。また発電時にも自らも発熱して、その相乗効果により周辺の雰囲気温度を一気に上げてしまいます。そこで国立長岡技術科学大学で屋上緑化と太陽光発電のコラボを実験して、比較的に良い結果が出ています。（太陽光6：緑化面積4）また環境先進国ドイツでも、既に多くの現場で太陽光発電と緑化のコラボが普通に実施されています。

より有形無形のプラスとする大きな癒しの効果があります。去年の春に病院屋上の改修現場に立会ったときのこと。末期癌患者の方がホスピス棟からベッドで横になったまま満開の桜の下に看護士さんの介助で出てこられて、まるで映画のワンシーンのように二コッと微笑まれて散る桜をいとおしそうに眺めておられました。死を間近に控えた時にやはり人は自然・緑を欲しがるも感じたなあと、つくづく感じたなあと、つくづく感じたなあと、つくづくです。これは単なる感情的な話ではなく実際にヒトや動物に本当にものすごいプラス効果があるのです。そこを医学的かつ科学的に極めた薄層屋上緑化研究会の講演会が2月19日メルパルクホールで行われます。医師の松永先生と桐蔭横浜大工学部の飯島准教授のお二人が緑がヒトに及ぼす効果を判りやすく説明していただけます。目に見えるお金の効果も大事ですが、人間最後の最後には、やはり求めるものは、自然や緑になると確信します。太陽光発電もいいですが、緑化をお忘れなくお願い致します。

大日新聞に関するお問い合わせ・ご意見などはホームページ及び
大日化成株式会社 06-6909-6755 までお願いいたします。

スタッフ紹介

日頃は営業活動やお電話で応対させていただいておりますスタッフの日常をお伝えいたします。

大日化成　岡山工場勤務の宮阪誠でございます。個人的には、会社までの通勤時間が車で3分の所に住んでおり、職住が近い利便性のおかげで色々と時間を活用しております。

時間を上手く使い趣味が多く、お酒・料理・パソコン、携帯（iPhoneアプリマニア）釣りなどと多種多様です。

特にパソコンはハードウェアオタクと言われるくらい、様々なハードウェアを自分で組み立てたりして、現在はWindows7フルタワーを構築しております。

また、釣りや料理は本当に趣味の範囲で、自分の食べたいものを休日につくったりする程度、釣りは年に数回・・・やはり魚屋で買う方が多いです。また、模型も大好きで、最近念願の田宮模型の1/10RCハイラックスを購入いたしました。とはいうものの、中々手を付けられず、いつ完成するのかは、未定です。

仕事の方は、大日化成岡山工場で原料調合・製造→検査→出荷という流れで、技術部、製造部の各工程部署の連携により成り立っていますが、私の業務は、購買品の手配、管理を行っており、色々な、仕入先との交渉などです。仕入先との交渉するにも、ビジネスライクにストレートに交渉するのではなく、多彩な趣味の話を交えてあの手この手で会話（交渉）を行い、会社に有益になるように心がけております。おかげさまで、仕入れ先様と友達関係とも言えるくらい、つうかあの仲となるところもございます。

どこかの工程にて歯車の歯が1つでも欠けると最終の出荷に影響を及ぼし、弊社の特徴でもある『当日受注の当日発送という、スピーディーで柔軟な対応力』にも傷を付けかねません。

工場長を筆頭にチームワークをモットーに全員が手をつなぎ、日々奮闘出来るように、社内管理や新入社員と幹部社員との仲介役のような事もしています。

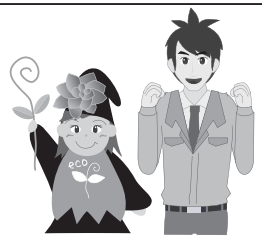
最後になりましたが、技術革新のスピードの速い中、皆さんに「あっ！」と思っていただける製品と、より信頼のおける製品を社員のチームワークでお届けしたいと思います。今後とも、大日ブランドを宜しくお願いします。

岡山工場　宮阪 誠

DAINICHI CHEMICAL CO.,LTD.

●本社
〒571-0030　大阪府門真市末広町 8-13
TEL：06-6909-6755(代)　/　FAX：06-6909-6702

●東京支店
〒105-0013　東京都港区浜松町1-2-5
TEL：03-3436-3801(代)　/　FAX：03-3436-3803



次号もお楽しみに

URL：http://www.dainichikasei.co.jp

Vol.23

映画で学ぶ環境問題

青い珊瑚礁

監督：ランダル・クレイザー
脚本：ダグラス・デイ・スチュワート
出演者：ブルック・シールズ
配給：コロンビア映画
公開：1980 年 8 月 14 日

今ではすっかり「往年の名女優」といった呼び方が似合う80年代に一世を風靡したブルック・シールズ。彼女の美しさが満開する本作は、1948年に続き3度目にリメイクされた作品です。

ロケ地は南太平洋のフィジーにあるヤサワ諸島ですが、周辺は未だに手つかずの大自然と風景が残っているため、世界中のセレブたちから『遥かなる天国』とも呼ばれ、人気を博しています。

ストーリーはシンプルで、まだ飛行機が普及していなかった時代に父親とともに航海していた少年が、親族の少女とともに船の遭難により、南太平洋の孤島に漂着するというもの。やがて大人へと成長した彼らは、二人きりの生活の中でごく自然に愛し合うようになり、子供を授かるものの、ちょっとした不注意から、また大海原に漂流しはじめるというものです。

この映画の中では、自然の中で力強く生きていく様子と、美しい海と島の大自然の素晴らしさが最大限に活かされており、その映像を見ているだけでも、心が癒やされるほどです。

さて、フィジーなど南太平洋に浮かぶ島が、地球温暖化による「水没」の危機にあるという報道を、近年、目にすることと想います。特にツバルやモルディブなどでは、「北極や南極などの氷が温暖化により融解し、海面上昇を引き起こしているため、大潮の時には浸水する住宅が増えてきている。このままだといずれ、我々の島は水没してしまう。」と主張しているという、報道がなされています。

ところが、これらの「報道」に真っ向から異を唱えるのは、中部大学の武田邦彦氏です。武田氏は高視聴率のTV番組「たかじんの言って委員会」でも人気の論客のため、ご存じの方も多いでしょうが、関東など一部地域ではこの番組が放映されていないため、ここで簡単に氏の主張を要約しましょう。

①氷などの物質は、温度が上がるから融けるのではなく、融点で融けるのだから、温暖化で融けるわけがない。
②IPCC（国連が気候変動に関して設置した組織）も、その旨、正式な報告書を出している。
③日本の環境省は誤訳をしている。
④そもそも、「地球温暖化論」は「誤り」である。

他にもありますが、本作に関連するところでは、このようなところです。

武田氏の主張は、大半の「科学者」やジャーナリストが報じてきたことと、まったく相反するため、マスコミなどでも当初はかなり懐疑的に取り上げられましたが、氏自身もブログで継続的に発信を続けるなどしており、今では武田氏の支持派も増えています。

ただ、我々一般人には、科学的・物理的な専門論議は、理解しづらいため、一体どちらが本当なのか？ 悩ましいものです。

とはいえ、美しい海と自然を守るためには、明確な答えが出なくても「正しい」行動が何なのかは、明らかです。たとえば、珊瑚を白化現象から守るためには、

①海に流れ出る農薬や化学肥料をできるだけ少なくする。
②紫外線予防の化粧品をつけたまま、海で泳がない。
③海や河川にゴミを捨てない。

など、私達にもできることが、少しはあるようですから、認知を広げていきたいものです。

そのようなことも考えながら、ぜひ美しい大自然とブルック・シールズを、この映画でご覧になってください。